



A Message from President Jonathan

2003-04

A Message from President Jonathan

■ RI 会長メッセージ ———

職業を通じて 社会に貢献を

RI 指定記事

親愛なる同僚ロータリアンの皆さん：

職業奉仕月間にあたり、私は、インド男性の典型的な正装服であるクルタパジャマを着ました。もちろん、この衣装を着たからといって、私がインド人になれるわけではありません。ロータリーは文化の多様性に富んでいるので、ロータリアンが事業をするのに、文化の違いを意識することは有益なことです。同様のことは、奉仕の理想を実践するときにも当てはまります。例えば、インドなどいくつかの国では、頭を左右に振ることは、「同意」を意味するでしょう。しかし、多くの西洋人にとって、この動作は同意しないことを表します。

事業ならびに専門職務を通じて 社会に貢献を

ロータリアンがどのように事業に従事していたとしても、まず心に浮かぶのは、商取引そのものではなく、関連するすべてのニーズと状況が、公正に考慮されるようにすることです。今月、私はすべてのロータリアンに、事業ならびに専門職務を通じて、社会に貢献するよう奨励します。皆さんは、若者に、また特に恵まれない人々や障害者に、働く機会を提供することによって、社会に貢献することができます。その一環として、就職情報の相談会を支援、開催することを考えてください。



手を貸そう



Jonathan B. Majiyagbe

ジョナサン B. マジヤベ

2003-04 RI 会長 ナイジェリア・カノ RC

もう一つの方法は、仕事を通じて地域社会に貢献してきたロータリアンをたたえる地区の行事を計画し、他のロータリアンも同じことをするよう推進することです。例えば、貧しい人々に食事を提供したことで、クラブから表彰されたレストラン経営者は、所属している地区が食べもの銀行 (food bank) を設置するきっかけをつくりました。

「四つのテスト」を地域の 職業人に広める

また、皆さんはロータリー親睦活動への参加を促すことによって、職業奉仕を焦点とすることができます。親睦活動のグループの中には、職業に基づくものや、職業分類にこだわらず会員増強を推進するもの、そして、クラブ会員は例会の初めに、それぞれの仕事について5分間話すといった、職業情報の発表を始めるものなどがあります。

しかしながら、皆さんの職業奉仕がいかに創造的あるいは画期的であるとしても、それと同様に大切なのは、私たちが尊重する「四つのテスト」を、それぞれの地域の職業人に伝えることです。私は、国会議員に「四つのテスト」のコピーを配布したアフリカのロータリアンを知っています。また、私のオフィスの壁に掛けてある、額に入った「ロータリアンの職業宣言」は、ロータリアンによって実行され、推進されている高い倫理的職業基準を一般の人々に知らせる一助となります。

ロータリー・ボランティアで 職業上の専門性を発揮

また、ロータリー・ボランティアプログラムも忘れないでください。それは、ロータリアンが医療、農業、技術、その他の専門性を発揮して、世界中の個人や家族を援助する別の機会を提供します。

私たちの 100 周年を祝う準備を進めながら、国内外の助けを必要とするすべての地域に手を貸すために、職業奉仕を活用しましょう。ドイツの詩人ゲーテが言ったように、「人間は…すであるべき姿になっているものとして接してあげると、その人が向上できるところまでは向上させてあげることができるものです」。

Jonathan B. Majiyagbe
2003-04年度国際ロータリー会長

*ゲーテの言葉の日本語訳は、『ゲーテ全集 7』「ヴィルヘルム・マイスターの修業時代 第 8 巻第 4 章」(前田敬作・今村孝訳、潮出版社、1982 年) から引用しました



職業を生かし 人を生かし

バヌアツとフィリピンで歯科医療奉仕活動

第 2660 地区 大阪船場 R C 澤田宗久会員

澤田宗久氏は歯科の開業医。大阪の中心、地下鉄の心斎橋駅のすぐ近くに病院があります。同氏は、歯科医という自分の専門を生かして、1983年、バヌアツとフィリピンで歯科医療奉仕を始めました。1995年、「南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立し、会長に就任。2003年1月、NPO法人「ジャパン デンタル ミッション」を設立、理事長に就任し、両国での歯科医療奉仕を続けています。

ロータリーは1988年の入会ですが、そのことによって、氏の活動はロータリーの中でも広がっています。この活動について、そして、その背景にある考え方について、澤田氏から直接お話をうかがいました。

歯の健康を

現地での医療活動は、病院での治療と巡回治療に分かれています。病院では、主に抜歯、充填（歯に詰めもの）をすること、入れ歯の作製をします。巡回治療は、抜歯を中心にしていますが、村々を回って口腔内の検診をしてデータを取り、WHO（世界保健機関）で齲蝕罹患率、つまり、どのくらい虫歯になっているのか、という統計を取っていますが、それをチェックしてバヌアツ政府に説明し、歯の健康に関する啓蒙運動をしています。

1年間にバヌアツに2回、フィリピンに3回出かけしています。1回に約10日間滞在して、その間に治療と検診を含めてですが、約1,000人を診ています。実際に歯ブラシを使って、子どもたちに歯磨きの指導もしていますが、それらの歯ブラシも寄贈によるものです。チームは、約20人。このほかに、文化交流と青少年育成ということも考えて活動をしています。



歯磨きの練習

歯科医や歯科技工士という専門家はもちろんですが、そういった資格をもっていない人たちも、ボランティアとして参加しています。これらの人たちには、食事の世話をしたり、文化交流するときの手伝いをしたり、治療をするときに補助的なことをしてもらったりしていますが、口コミで私たちの活動を知って参加してくださる方がほとんどです。

次世代の人々を育てる

あるとき、ご両親に頼まれて不登校の生徒をバヌアツに連れて行ったことがあります。出発する前に私の家に泊めて、ほかの参加者とのミーティングにも参加させました。それから、現地に連れて行きました。こういう子どもは、愛情に飢えていることが多いので、一緒に生活をして愛情と夢を与えるようにしますと、最初、無表情だったのに反応が出てきて、無口だった子が何でも話すようになりました。帰国してから学校へ行きたいと言い出して、大学にも進学しました。ロータリアンとしては、そういう教育も必要ではないかと考えています。

こういった例のみならず、参加した若いボランティアの人たちが、それによって何かを得ることができるというのが、青少年の育成につながるのではないかと考えています。文化交流について言えば、日本と現地の子どもたちとの絵画の交換という形で、橋渡しをしています。

日本は経済的には優れていても、資源がないので、どうして生きるかということを考えた場合、貿易しかありません。そのためには、小さいときから海外の人たちとの交流を図り、違う国の人や文化に触れる必要があります。

す。そういう意味で、絵画の交換を行っているのですが、私たちが医療奉仕に出かけるとき、近くの小学校の児童たちに描いてもらった絵を持参して、現地の子どもたちに渡します。また、現地の子どもたちには、クレヨンと画用紙を持参し、絵を描いてもらって持ち帰り、日本の子どもたちに渡しています。子どもたちは、お互いの絵を見て、お互いの文化や生活を理解することができるのです。

ロータリーとのかかわりということ言えば、所属の大阪船場ロータリークラブ（RC）からは、毎年、チャリティーの収益金と国際奉仕の予算に合わせて、70万円の援助金をいただいています。このほかに、会員の方が、個人的に私たちのNPOに入会して、会費を払ってくださっています。また、シャンプーやタオルなど、会員企業で扱っている商品や製品を寄付していただいています。物資の面での支援は、地区内にとどまらず、私たちの活動を知った、他地区の会員の方からもいただいています。

こういった活動をするの一言で言えば、「生かされしわが人生に感謝」ということです。私は、子どものころから、8回も死にかけています。そういった経験によって、自分は生きているのではなくて、生かされているのだということを悟りました。ですから、自分の体が健康になったときに、何か世のため、人のために尽くすのが本来の自分の道であるというふうに思ったのです。それがこの活動を始めたきっかけです。

「四つのテスト」を守って活動

ロータリーに入ったのは、私の友人に、私共のスポンサーである大阪心斎橋RCの会員がいて、大阪船場RCができるときに誘われたからですが、それ以前にも、ロータリーの活動について知っていました。それで、自分がロータリアンになったときに、職業奉仕をさせていただければ、一番幸せだなと思ったのです。「四つのテスト」のことは、入会するときに初めて知りましたが、自分が理想としている考え方と「四つのテスト」が合致したので、これを忠実に守って活動をしなければいけない、ということを実感してきました。



自分の描いた絵画を持って記念撮影

ロータリアンとして、私たちには「四つのテスト」という素晴らしいスピリットがあります。ロータリアンになった以上は、本来のロータリアンの活動は何であるかを、絶えず考えなければいけないと思います。

ロータリーとは昼ご飯を食べに行くとか、単なる付き合いの場ではありません。ロータリーは親睦と奉仕だと思います。奉仕があるからこそ、忙しい社長たちが、昼の目^{ひな}中から「ロータリーへ行ってくる」と言っても、ほかの従業員は快く送り出すと思うのです。どんな奉仕をするかは、いろいろあると思いますが、それを考えて着実に前に進んでコツコツとやるのが、本来の姿だと思います。

私自身は、自分の仕事をするのが職業奉仕だと思っています。それで海外へ行ったら国際の職業奉仕になる、国内でやったら国内の職業奉仕になる、ということにつながると思うのです。仕事をしているのだから、営利追求と考えるのが、一般的な考え方もかもしれませんが、「みんなのためになるかどうか」ということを考えて仕事をすれば、営利というのはあとでついてくるものだと思います。何をすべきか、何をやらないといけないかを考えるのが先決だと思うのです。私の仕事の場合は、患者さんにとって何が必要か、ということを考えていなければならないと、思っています。

そういう意味で、私のこの活動は、職業奉仕ということになるのだろうと思いますが、始めた以上は、体が動かなくなるまで、続けていきたいと思っています。

取材『友』編集長 二神 典子



診療中の澤田会員

今日における職業奉仕の重要性について

国際ロータリー理事 菅生 浩三 (大阪北)

社会に役立つ人間になる方法は 自分の職業の中にある

ポール・ハリスは、「社会に役立つ人間になる方法はいろいろあるが、最も身近で効果的な方法は、間違いなく自分の職業の中にある」と述べています。この職業という領域にこそ、ロータリーの奉仕の本質があります。職業奉仕がロータリーの生命であり、金看板であるといわれるゆえんであります。ロータリーがほかの奉仕団体と一線を画する根拠も、この職業奉仕にあります。

ところが、職業奉仕は複雑かつ難解であるという意見をよく耳にします。残念なことですが、このことを理由に、職業奉仕の活動をまったく無視して、ほかの3つの奉仕部門の活動だけに取り組むロータリアンが、非常に多くいます。また、職業奉仕がロータリーの拡大や増強の妨げになっているといった極端な意見すら、聞かれるようになりました。

事実は、全く逆であります。いつの時代にも増して、ただ今の世界ほどロータリーの職業奉仕を必要としている時代はありません。今日の事業経営や職業では、人々は、競争の偏重や他人の犠牲をかえりみない増益の圧力や、技術開発のとめどもない進行と苦闘しています。今日の教育機関や事業環境の多くは知能教育に偏し、共感や誠実さなど、私たちが良い性格と総括する美德を培うことができない状況にあります。

このことは、近時世界の各地域で続発している衝撃的な不祥事を見れば、^{いちもくりようびん}一目瞭然です。次々に発生する不祥事は、世界有数の事業家たちが、社員や株主や顧客の福利よりも、自分個人の利益を優先していることを示しています。少数の人間の欲望と墮落が、多くの人々の生活を破壊してきたのです。



国際協議会で「職業奉仕」について
スピーチする菅生浩三RI理事

こういった不祥事にかかわった経営者たちは、私たちの「四つのテスト」の第一の問いかけである「真実か どうか」さえクリアすることはできないでしょう。ジョナサン・マジアベ国際ロータリー(RI)会長が奨励されるように、職業奉仕に対する私たちの貢献を新たにしましょう。そして、ロータリアンの活動に職業奉仕がいかに不可欠であるかについて理解を深めるために、敬遠されてきた職業奉仕の原点と重要性について、注意深く検討を加えてみたいと思います。

「サービス」「Service」というロータリーの基本理念は、実に単純です。人は、自分のためだけではなく、他人のためになるように誠実に他人に尽くすことによって、はじめて自分の幸せを手に入れることができるということです。そして、そのような人々によって、はじめて幸せな良質の社会が築かれるでしょう。しかも、このような考え方は、ロータリーだけの独占物ではありません。本来的に文明社会の根底に横たわる基本的な真理です。ロータリーは、その真理を指摘し、そしてその実践を強調してきただけなのです。

例えば、ロータリーの綱領もそうですし、アーサー・シェルドンの「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」や、フランク・コリンズの「超我の奉仕」などの公式のモットーもそうです。そして、ロータリーは、長年にわたり、率先して他者に奉仕することを提唱し、実践してきました。従って、世界がどのように変化しても、時代を超えるロータリーの使命は、100年近くも変わることなく私たちを支えてきたのであります。

職業を正しく遂行すること自体が 社会に奉仕することを意味する

ところで、社会は人々のニーズの集積であり、このニ

ズを充足する職業の集積であるとすれば、職業こそが、社会における最高の価値を占めるものであります。そこでロータリーは、創立当初から、このような職業の価値と社会のさまざまな需要に応えるための、多様な職業の必要性を強調してきました。その大前提として、職業分類の原則があります。各ロータリークラブには、地元社会を機能させている多種多様な職業が反映されていなければなりません。さらに、各ロータリークラブは社会全体の小宇宙であり、職業の道徳的水準を高め、業務を品位あらしめるという責任を担っています。

従ってロータリアンにとって、職業奉仕とは、社会に奉仕するための一つ的手段として職業を用いることだけを意味するものではありません。もちろんそのことも重要ですが、職業を正しく遂行すること自体が、他者のニーズを充足し、他者に奉仕すること、すなわち社会に奉仕することを意味するというでもあります。そして、顧客、雇主、従業員、共同経営者、同僚、同業者その他の職業の関係者や社会一般の人々との公正なあり方を正しくとらえることによって、社会全体に奉仕することを意味します。一般的社会において職業とは、生計を得るための、あるいは財産を形成し、社会的地位の充実向上をはかるための手段と解されており、これはごく自然な受け止め方ですが、しかしながらその受け止め方は、自分のための職業であります。

そのような考え方では、数々の外部的な制約が必要となるでしょう。例えば、^{むさぼ}貪らないように、手を抜かないように、不正な手段を用いないようにと、行政の規制や司法的な刑罰や内部告発などという方法まで考えられています。しかし、ロータリーの職業は他者のための職業活動です。さすれば、数多くの制約は不必要となるでしょう。自己のための職業から他者のための職業への転換、これこそが職業倫理の基本でありましょう。

「四つのテスト」の実践が 企業の収益を回復

このような職業奉仕を実践する一助として、ロータリーでは具体的な表現手段が創案されています。1989年以来、前後8か条からなる「ロータリアンの職業宣言」は、職業奉仕についてのロータリーの見解を簡潔に説明し、ロータリアンの道しるべとなってきました。さらに、私たちに最もなじみ深いものは、ハーバード・テイラーが1932年に創案した「四つのテスト」です。彼がその

後1954—55年度にRI会長を務めたことは、偶然ではありません。

ハーバード・テイラーは、1932年クラブ・アルミニウム社を経営する仕事を引き受けました。この会社は、卸売業者に製品を大量に押し付ける強引な販売方法とか、競合会社を非難する宣伝方法とか、競争相手より値段を下げて最後の一滴まで利益を搾取する^{えくしゆ}方法など、当時広く容認されていた策略を用いながら、しかも倒産寸前の窮地にありました。ハーバード・テイラーは、「四つのテスト」を関係者全員に頒布し、忠実に活用するよう要請しました。クラブ・アルミニウム社は、短期間に、誠実で公正であるとの評価を高め、急激に企業の収益性を回復することができました。以来この「四つのテスト」が、ロータリアン各自が自己の職業奉仕を自己評価する尺度として、決定的に重要な機能を果たして今日に至っていることは、皆さまよくご承知のとおりであります。(本誌横組みP31～33に関連記事掲載)

ご承知のように、職業奉仕は、ロータリアン個人の責務だけでなく、クラブや地区の責務であります。1989年に採択された理事会の「職業奉仕に関する声明」によれば、クラブや地区の職業奉仕の責務とは、職業奉仕を実践してみせること、クラブの行動に職業奉仕を生かすこと、模範となる実例を示すこと、会員の職業手腕を発揮できるプロジェクトを開発することです。

職業奉仕をはぐくむためにロータリークラブにできることは数々ありますが、まず職業奉仕に関する認識を高め、討論を推進することから始まります。「四つのテスト」をクラブの週報に記載しましょう。「四つのテスト」をはじめ、「ロータリアンの職業宣言」、理事会の「職業奉仕に関する声明」などを例会場やクラブ事務所に掲示しましょう。新会員の選考や教育の場で職業奉仕を強調しましょう。クラブの職業奉仕活動のプログラムやプロジェクトのアイデアを、ほんの一握りですがご紹介します。

- 新たに地域社会に移動してきた人たちが、必要なものやサービスを得られるよう、力になりましょう。
- 同業組合や労働組合が国や地方公共団体の政策に及ぼす影響に対する会員の認識と注意を喚起しましょう。
- 地元商工会議所との共同プロジェクトを実施するための小委員会をクラブに設置しましょう。例えば、就職相談、職業指導、職業情報、職業訓練、引退後の活動の充実、識字率の向上、職場の薬物乱用防止と治療、職業活動表彰の開発などです。

10月は職業奉仕月間

- ・クラブ内のロータリアンの専門知識を活用して、青少年や障害者への職業指導、新しい職域の開拓、出所後の受刑者への職業相談などを提供しましょう。
- ・ロータリー・ボランティアになり、各自の才能や技術を、それらを切実に必要としている世界の地域にもたらしましょう。

職業奉仕の範囲は

会員とクラブの創意によって無限大に広がるもの

職業奉仕の範囲は、会員とクラブの創意によって無限に広がるものであります。自分の職業の場で奉仕するだけでなく、職業を生かして地域社会や国際社会で奉仕活動を行うことができます。ロータリー・ボランティア・プログラムや、研究グループ交換（GSE）など、多くの財団プログラムも、職業奉仕を国際的に拡大する側面を色濃く備えています。さらに双子クラブの関係も、ロータリアンがその才能を進んで提供し、専門技術による奉仕を世界のほかの地域に広める手段となるでしょう。

ロータリーのニュースの中でも特に素晴らしく感銘深いものは、自己の職業技能を地域社会や国際的な奉仕のために用いたロータリアンの実話です。私たちは、生来備わった才能を基に職業を選びます。各自の才能を他者への奉仕に用いることは、私たちの多くがすでに気づいている通り、人生で最も豊かな経験の一つであります。

- ・イタリアの医師であるロータリアン、チリノ・フィチェラ氏は、インドをはじめアジアとアフリカの9か国を訪れ、ロータリー財団を代表して大型医療プロジェクトの運営状況を評価しました。フィチェラ氏は、ナイジェリアとマダガスカルで初のポリオ全国予防接種日を組織し、血液バンクを設置し、栄養プログラムを開始するなどの援助のために、医学分野での経験や専門知識をささげました。
- ・タイのスリナカリンウィロット大学の教育学准教授であるロータリアン、サオワラク・ラッタナビッチ氏は、読み書きの教授法としてアジア、アフリカ、ラテンアメリカ、地中海地域で大成功を収めてきた集中言語能力助長プログラム（CLE）の地元社会での受け入れのために、重要な役割を果たしました。ラッタナビッチ氏は、地区では奨学金小委員会の委員長として、また、ゾーンでは識字・計算能力の向上グループのコーディネーターとして、奉仕されました。
- ・カリフォルニア州に水ポンプ製造会社を所有するロー

タリアン、ラリー・ビスタチオ氏は、太陽エネルギーで稼働する水ポンプを2年がかりで開発しました。ビスタチオ氏は、ドミニカ共和国に渡り、同僚ロータリアンとともに電気の通っていない小さな村にこの発明品を製備しました。ビスタチオ氏の働きのおかげで、この村には今ではたくさんの水があります。

このように多くのロータリアンは、ロータリーが職業奉仕の期待に応えるのに役立っているのです。

職業奉仕は古典的だが

永遠に日々新しい課題

前述の通り、企業の秩序は底辺にまで落ちました。社会の各層各面において絶え間なく発生している大小さまざまな慢性的な不祥事は枚挙にいとまがありません。個人の絶対と苛酷^{かこく}で倫理に背を向けた競争は、社会と企業の秩序の破壊を限りなく進行させています。これに対するロータリーの対応は、職業奉仕の価値を再構築することです。なぜなら、私たちは、職業奉仕によって、はじめて自らの個人の絶対の行き過ぎや競争偏重の非を自覚できるからであります。職業奉仕の努力は、会員自身に関する努力と外部に向けた努力とがありますが、そのいずれであるかを問わず、その努力の特質は、人間の中からの自発的な力に訴えるところにあります。そしてロータリーの外部に向けた努力は、地域社会からさらに国際社会へと拡大し、自分が関係する周囲の経営環境や生活環境に強力に働きかける力となるべきであります。

今日における人間社会の広汎で深刻な非倫理化の潮流に対して、ロータリアンがとれる行動は一つしかありません。私たちの大切な伝統を取り戻しましょう。私たちの責務を、全面的に受け止めましょう。貪欲と競争と自己中心の考え方に不賛成の意を表し、代わりに、自制と協力と超我の奉仕というより高い基準を尊ぶことに力を貸しましょう。職業奉仕はたいへん古典的な課題ですが、同時に、人間社会が存在する限り、永遠に日々新しい課題であることを、しっかりと理解したいと思うのであります。

編集部から

本年1月、アナハイムで開催された折の菅生R1理事の講演は、多くのロータリアンに感銘を与えました。その評判を聞いて、『国際協議会講演集』を読まれた方も多いと思います。本文は、その折の講演を基に、職業奉仕についての見識が特に高い日本のロータリアン向けに執筆していただいたものです。